



ジョイスタ

台東区立浅草中学校

令和8年 6月号

期末考査が終わりました。今週はテスト返却の連続で、ドキドキの毎日かもしれません。1年生にとっては、中学生になって初めて経験する定期考査でしたね。「試験前はこうした方がいいよ。」と、先生や家族、先輩からいろいろとアドバイスもらったことでしょう。でも、自分のやり方で十分なのか、不安になった人も多かったかもしれません。逆に、深刻にとらえず、準備不足のままテストを受けてしまった人もいませんか。

定期考査のときの提出物ってなんのため？

実は1年生と話したり、提出物チェックをしたりしているうちに、心配になったことがあります。

・「ただ、やってあげばいいんでしょ！」と思っている人がいます

テスト範囲と提出課題が発表される時点では、まだ授業で学習していない部分も含まれていることが多いですね。でも「終わらなかつたら困るから」という理由で、急いで課題のワークをやっていた人がいました。まだ習っていないところでさえ、解答集を見ながら書き込んでしまい、そのまま赤ペンで丸を付けてしまう人もいました。(でも授業で習った後の直しは全くしていません…)

・「提出物の範囲を1回しかやっていないけど、とりあえずセーフ！」と思っている人がいます

課題の範囲をみたら、すでに毎回の授業の宿題で終わっているところが多かったので、「ラッキー！」と思って放置し、ギリギリになってから、やっていないところを慌てて終わらせてだけ。先生たちは「ワークは3周した方がいいよ」というけど、そんなの無理だし、やってなくてもどうせバレないという考え方…。

提出日を守ることは大事ですが、提出物(ワーク)の「目的」を意識して勉強するのとしないのとでは、結果にかなり大きな違いが表れてくるはず。以下にその目的の一部を挙げてみます。

目的① しっかりと習ったことを復習して、理解できていることと理解できていないところを把握する

目的② 問題をよく読んで解くことで、テスト問題の設問の形式に慣れる

目的③ テスト勉強として何をしたいかわからない人にとって、具体的な方法となる

目的④ 提出期限を意識して、計画的にコツコツと努力する学習習慣を身に付ける

先生方が繰り返し言ってきたことですが、あまり重要視していなかった人もいるのではないのでしょうか。今回の期末考査に向けてテスト勉強が上手くできなかつたと感じているなら、まず、この提出物との向き合い方から改善できます。そのための第1歩として、普段の宿題の取り組み方から始めてみましょう。

浅中生の底力を見せるとき！<第1回基礎学力向上コンテスト>

6月5日に行われた基礎学力向上コンテストの結果は以下の通りです。

	コンテスト内容	満点 (受験者数)	平均点	合格者率
1年	漢字	80人 (150人)	95.0点	97.3%
2年	漢字	96人 (145人)	97.1点	97.2%
3年	漢字	49人 (115人)	90.9点	88.7%

1年生にとって初めてのコンテストでしたね。8日(月)の帰りの学活で答案を返却したとき、フロア中にみなさんの歓声が湧きあがりました。翌日の学年朝礼では、早速、満点を取った生徒の呼名と代表者の表彰。名前を呼ばれて、ちょっと照れくさそうな、でも誇らしげな表情が印象的でした。翌日のデイリーライフには、「満点賞の賞状がもらえて嬉しかった。グランドスラムをめざしたい!」「1問間違いが悔やまれる…。でも次は満点取りたい。」などの感想がたくさん書かれていたようです。



どの学年も漢字コンテストからのスタートでしたが、「コツコツと努力を重ねれば確実に力が付く」ということを誰もが実感できる良い機会だったと思います。一方で、普段何気なく書いてきた漢字が間違っていた、というケースも目立ちました。自己採点のときに、注意して正解を確かめずに丸をしまう人も少なくないようです。今回、「思い込みって怖いな」と気付けたなら、今後の学習において見直すことを習慣にしていきましょう。

* 次回のコンテストは、9月に実施されます。1年生、3年生は社会科、2年生は理科の予定です。

期末考査前のジョイスタの様子



6月15日(月) 2、3年生利用日

* 4日間の利用者延べ人数:112人

* 1日あたりの利用者平均人数:

1年 23人、2年 11人、3年 11人

6月16日(火) 1、3年生利用日



<写真>テスト前は盛況です。ひとりで黙々と課題を進める人もいれば、先生に質問したり、生徒同士で教え合ったりする人もいます。